

## 少女雑誌の部屋から

今月は、少女雑誌の挿絵画家として、漫画家として、マルチに活躍した松本かつぢを特集いたします。かつぢは幼い頃からスポーツが得意でやんちゃだった一方、絵を描くことも大好きでした。挿絵画家としてデビューした後は、高島華宵や落谷虹児に続く新世代の画家としてめきめきと頭角を現しました。抒情画から漫画、そして童画へと画風を自由に操り、多くの人々の心を魅了したかつぢ。その活躍の一部をご紹介します。

## 松本かつぢ

Katsuji Matsumoto

1904-1986

神戸市生まれ。本名は勝治。

立教中学中退、川端画学校でデッサンを学ぶ。中学在学中から家計を助けるために雑誌の挿絵を描くアルバイトを始める。昭和初期に少女雑誌の挿絵画家としてデビュー。エキゾチックで華麗な抒情画とコミカルタッチの絵を同時に描き分け、人気を博した。

昭和13(1938)年、『少女の友』にて漫画「くるくるクルミちゃん」の連載を開始。戦後、掲載先を『少女』(光文社)に変えながら、35年間にわたって掲載された。

50歳を機に少女雑誌の挿絵画家を引退し、童画の仕事やベビーグッズの企画・制作等、幅広い分野で活躍した。

## 抒情画家に憧れて

新聞社に勤めながら並行してアルバイトでカットや挿絵を描いていたかつぢに転機が訪れます。妹が愛読していた『令女界』に掲載された落谷虹児の渡仏送別記事の中で、大勢のファンに見送られながら横浜からパリへと向かう晴れがましい虹児の姿に目が釘付けになったのです。その時、「自分も抒情画家になる」との決心を新たにしました。  
(その後、末の妹・龍子は落谷虹児の妻になりました)

## 元祖はクルミちゃん

連載漫画「くるくるクルミちゃん」は少女漫画の先駆的作品となりました。主人公クルミちゃんは、愛すべきキャラクターとして少女たちから絶大な人気を誇り定着していきま。雑誌本誌やふろくにとどまらず、次々とグッズ化されて女の子向けキャラクターの元祖となりました。偽物が出回るほどの人気ぶりだったようです。

## 淳一とかつぢ

昭和10年代、女学生たちの間では中原淳一と松本かつぢの描く抒情画がブームで、ファンが二派にわかれていました。どちらのファンであるかによって性格や好みが変わったそうです。淳一は『少女の友』の看板画家として活躍していましたが、昭和15年、軍部の圧力によって6月号の表紙を最後に降板します。その後、淳一に代わって編集部の柱となり、誌面を守ったのがかつぢでした。

## 初の弟子・上田としこ

女性漫画家の草分け的存在として活躍した上田としこ。かつぢの描いた漫画「ポクちゃん」に感動し、兄の友人にかつぢを紹介してもらったのをきっかけに、最初の弟子となりました。としこは昭和12年に漫画家としてデビュー。代表作に『フィチンさん』があります。また、村上もとか作の漫画『フィチン再見!』はとしこを主人公とした伝記漫画で、かつぢも登場します。